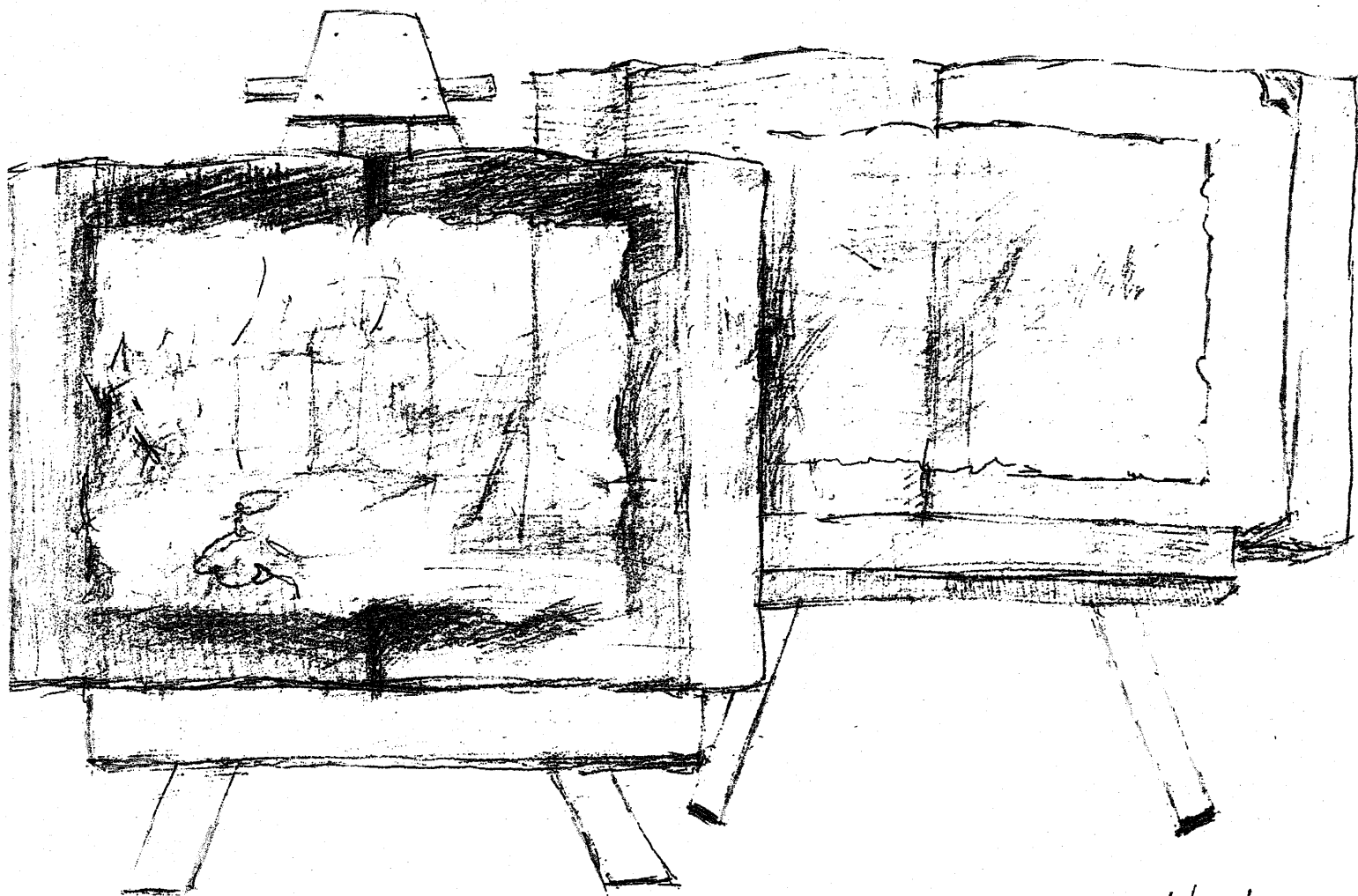


平成19年度  
図書ボランティアフェスタ  
記録集



A. Kondo

あおば学校支援ネットワーク

平成19年10月31日



あおば学校支援ネットワーク主催



# 図書ボランティアフェスタ

## 目次

ごあいさつ	2
A トークショー 「言葉と絵が語るお話の世界」	3
B 本の修理講座 「やってみよう！本の修理」	9
C わらべ歌で始めるお話し会講座 「お話し会のコツ1・2・3」	13
D 語りと音楽による手作り紙芝居の世界	17
E 学校図書館活用講座 「もっと使える！学校図書館」	19
F ブックトーク講座 「How-to ブックトーク」	23
G 英語で楽しむ絵本の読み聞かせ	30
H 読み聞かせ講座 「読み聞かせのコツ1・2・3」	31
情報と交流	37
受講生感想	38

**A 10:00~11:20**

**トークショー**

**「言葉と絵が語るお話の世界」**

絵本学会初代会長

武蔵野美術大学芸術文化学科主任教授

今井良朗氏

「絵本は、読み手の身体と想像の世界を結ぶきわめて対話性に富んだメディアなのです。『絵本の視覚表現 そのひろがり』より

**D 11:30~12:20**

**語りと音楽による手作り紙芝居の世界**

「ちいちゃんのかげおくり」他

かみしばいアンサンブルよこはま

紙芝居創作・語り:大泉ひろ子さん

作曲・演奏:原 和子さん

「ちいちゃんのかげおくり」の世界を

語りと音楽で再現します。

あまきみこさんも応援しています。

**G 12:30~13:20**

**英語で楽しむ絵本の読み聞かせ**

「Lotus Seed」etc.

国際児童文庫協会

マクレラン直子さん

リュート演奏 近藤 亘さん

海外のお話をリュートの調べ

にのせて。異国情緒あふれる

世界をお楽しみください。

**B 10:30~11:20**

**本の修理講座**

**「やってみよう！本の修理」**

有隣堂

傷んだ図書を生き返らせましょう。

基本的な修理法を学びます。

**E 11:30~12:20**

**学校図書館活用講座**

**「もっと使える！学校図書館」**

有隣堂

学校図書館の有効的な利用

方法を司書がアドバイスします。

**C 10:30~11:20**

**わらべ歌で始めるお話し講座**

**「お話し会のコツ1・2・3」**

榛 裕子さん、片山恵美子さん

現代っ子に伝えたいわらべ歌

を導入に使用して、子どもたちを

引き付けるプログラムを紹介します。

**F 11:30~12:20**

**ブックトーク講座**

**「How-to ブックトーク」**

山内図書館司書 山村園江さん

緑図書館司書 笠原由紀子さん

難しいと思って敬遠しがちな

ブックトーク。始めの一步を

踏み出す講座です。

**H 12:30~13:50**

**読み聞かせ講座（初級）**

**「読み聞かせのコツ1・2・3」**

おはなしのエミール:

羽生美恵子さん、吉田久美子さん

安達かおりさん

ご希望の多かった読み聞かせ講座

のエッセンスを集めました。楽しく

学んで一気にレベルアップ。

**情報と交流 「読み聞かせグループ情報」「おすすめ本展示会」**

青葉区内の読み聞かせグループの紹介やおすすめ本の展示をしています。講座の合間にお立ち寄り下さい。

## ごあいさつ

こんにちは。あおば学校支援ネットワーク(Aoba School Support Network)です。

あおば学校支援ネットワークの図書ボランティア支援活動は、今年で3年目を迎えました。「図書ボランティアフェスタ」はお楽しみいただけただでしょうか。当日は120人以上の方が来場し、また青葉区以外からも足を運んでいただきました。

今年の催しの特徴は、「楽しみながらスキルアップ」というコンセプトのもと、「フェスタ」という新しい趣向を取り入れたことです。図書ボランティアの皆さんの活動を豊かにするような多様なブースをご用意することで、「フェスタ」の名のごとく、楽しくかつ役立つイベントになるように工夫しました。トークショーを始め、読み聞かせ講座、修理講座、ブックトーク講座など従来の講座形式で実践的に学ぶ場とともに、紙芝居・読み聞かせと音楽のコラボレーション、わらべ歌など皆さんに楽しんでいただく場としても活用いただけていましたら幸いです。

また、今回は学校図書館や地域の読み聞かせグループで活動している図書ボランティアの方にもスタッフとして企画・運営に関わっていただきました。図書ボランティアの立場から様々なご意見やご提案をいただくことで、内容に幅を広げることができました。このように現場で活動している皆様と連携して、青葉区の図書活動を盛り上げていくことが大切なのだと改めて感じています。あおば学校支援ネットワークでは、今後も地域やボランティアのニーズに応えながら、皆様の活動のお手伝いをしてまいります。

平成19年10月



## A トークショー 「言葉と絵が語るお話の世界」

講師：武蔵野美術大学 芸術文化学科 主任教授 今井 良朗 氏  
絵本学会前会長

絵本の捉え方は多様で、絵本の持つ表現の特性を知ることによって読み聞かせも違ってくのではないかというお考えから、絵本の特性が実際に読み聞かせにどのように活用されるかについてお話しいただきました。

### 1. 絵本の時間性－物理的時間と体感時間

#### ① 絵本とアニメの時間性のちがい

- ・映像は日常生活の5倍の体感時間で作られると言われてきたが、最近のものは7～8倍の体感時間で構成されているものも多い。
- ・私たちは、いつの間にか時間との関係が恐ろしく速いところで生活している。

このような目まぐるしい時代になればなるほど、生活の中での時間のコントロールがますます難しくなり、ゆっくりものを見たり考えたりすることができなくなってきている。最近の子どもが受け身的で、ものを考えていく力が弱まっていると言われているが、こういうことと無関係ではないだろう。

- ・これまで以上に絵本の重要性を感じている。映像とはまた違った絵本の持つ独特の時間性が子どもには大切だと思うから。

#### ② 絵本とアニメの表現のちがい

##### 映像は

- ・作る側が構成・演出している。作る側の視点を受け入れる。
- ・カメラがとらえているものは、撮っている人の視点と選択による。
- ・作る側が主体で、見ている人は作り手の視点を代理的に受け入れる関係。

##### 絵本は

- ・構成・演出された作り手の主体的なものがあることは同じ。
- ・読むとき時間を支配するのはページを繰る読み手、ここが決定的に違う。
- ・画面の中に描かれた要素を選択する順序や方法が決められていない  
→「絵本は対話の形態を前提に表現が成り立っている」

だからといって、絵本と映像の差異や優位性を問題にするわけではない。時間と空間表現に対する共通性を持ちながらも、この二つのメディアは異なったものであり、それぞれが独自の表現特性を持っている。

—たとえば— 安野光雅の「旅の絵本」の一場面

この場面の絵の中には多くの事柄が描かれている。

左側の馬車、右下の市場での売る人、買う人の関係が展開されている。

絵に描かれていることからいろいろな出来事を想像し、展開できる。

絵の中で時間が動き、広がっていく。

自分自身の目で選択しながら見て、見たことから展開できる。

普段生活している空間と同様で、物事がつながり、次から次に展開される。

安野光雅さんの絵は1時間でも楽しむことができる。

### ③ 絵本を見る関係とアニメを見る関係

- ・アニメはあまりにも慌ただしい時間が流れ、絵本とはちがった意味を持つ。
- ・絵本はゆったりとした時間のコントロールの中で見ていくことができる。
- ・アニメは一定の時間の中で構成される。
- ・大きな違いは、アニメには音がある。アニメの中の言葉は台詞、音である。
- ・絵本の中の言葉は文字、視覚的表現。
- ・ことばの使われ方が決定的にちがう。

アニメの中のことばは日常生活に近いことばでとっつき易い。

絵本のことば—書き言葉—物語性—文学性。

書きことばの限界を補うために「読み聞かせ」が行われるのも自然な形。

### ④ 絵本は文学への導入？

- ・絵本に触れることで、物語に触れる点では確かに入り口になる。
- ・しかしそこだけに囚われてしまうと別の面を捨ててしまうことになる。
- ・絵本は絵とことばで構成される独特なメディア：絵本の特徴
- ・そのためアートの側面も持つ。絵本は子どもが最初に接するアートでもある。
- ・それは絵画とも異なるもの。本という構造をもった独特の造形物。
- ・時間の表現、場面の表現から物語は具体的展開をもつ。

⑤ 絵本はメッセージを発する

- ・子どもと周りの世界を結ぶ接点となる。絵本を通して身の回りの世界と対話する。→絵本そのものが言語的役割をする。
- ・絵本自体がコミュニケーションのための言語となる。  
視覚言語：イラストレーションの世界もメッセージを伝える言語
- ・子どもたちは絵本を通して生きていくための創意工夫、生活の知恵を獲得していく。→追体験をして、絵本を通して発展させていく。

⑥ 年齢相応の感性の領域

- ・絵本に3歳からとか、5歳からとか書かれているがいないと思う。
- ・感性は自分で作っていくもの。言語形成、美意識段階的に形成されるもの。

—たとえば— 「ピカソの顔」

小さい時には何でこんな絵があるの？とか、不思議な顔として受け取る。キュビズムの考え方を教わると、こんな表現もあるのだと理解する。知識として押しつけるのではなく、実感していくことが大切。美術館で絵画を観るのに年齢の規定はない。

- ・最初に入って来る情報とある一定時間たってから入ってくる情報はちがってくる。言語形成、美意識は段階的に作られていく。常に発展している過程の中にある。

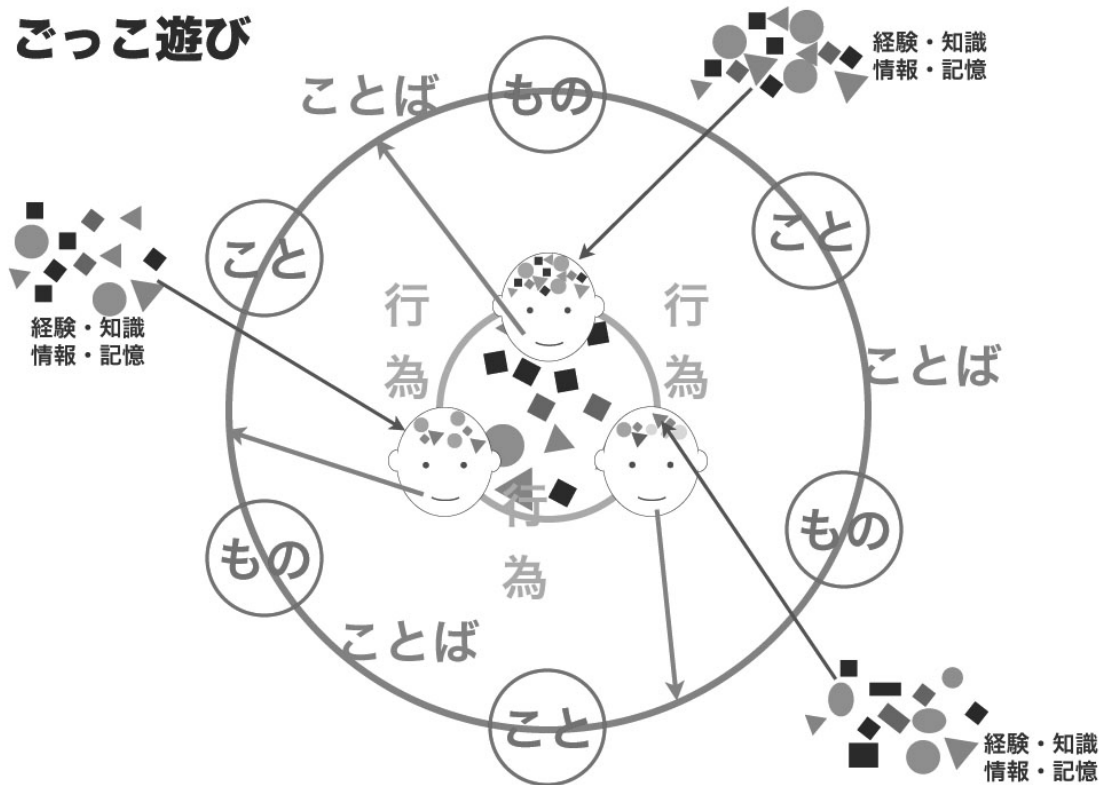
⑦ ことばとイメージの獲得

- ・「もの」や「こと」のつながりを作っていく。  
「にゃんにゃん」猫、「ブーブー」自動車
- ・小さい子どもは「ことば」と「もの」と「イメージ」が曖昧な状態
- ・これを早い時期に強制的に分離させることがいいか疑問。
- ・子どもにはそのものと結ぶ必然性がある。自分で言語として獲得していくのでは。

⑧ 「ごっこ遊び」から学ぶ

- ・ごっこ遊び：電車ごっこ、ママごと…の「もの」「こと」のつながりからことばとイメージを獲得していく。

## ごっこ遊び



- ・ことばによってつないでいく。無言のごっこ遊びはない。
- ・ことばが重要な役割、追体験する：自分が感じていることをことばによって表現していくことで、追体験となり自分自身の確認になる。  
例えば「お父さん」のイメージ⇒頭の中にあるものを言葉と結びつける。
- ・具体的なイメージではない、曖昧性がイメージを膨らませ、もっと豊かな言葉を生み出していく。
- ・絵本に描かれているものも同様にイメージが膨らみ言葉が豊かになる。
- ・日常のさまざまな関係のものをごっこ遊びで身近に体験、世界を広げ獲得していく。

⑨ 言葉とイメージは想像力を媒介として自分の中でつながり、膨らむ要素を持つ。

⇒絵本の表現を支える基盤…絵本とごっこ遊び

ごっこ遊びの変化：今、一人ごっこ遊びになっていることが多い…

コミュニケーションできない、関係をつくれぬ要因になっているのでは。

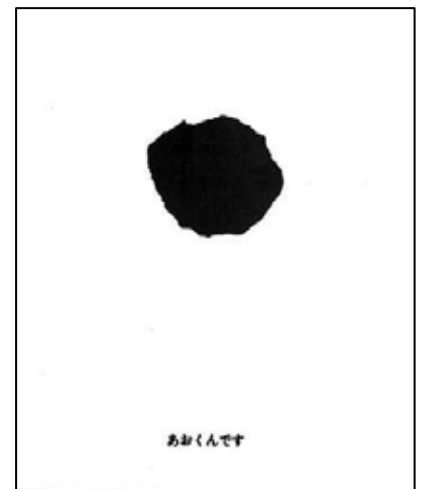
- ⑩ メディアを知ること・メディアの使い方を知ること(絵本もメディアのひとつ)  
・絵本の表現は多様、表現の仕方を知ることによって生かし方も違ってくる。

はやしあきこさんの絵本 あさえとちいさいもうと

- ・描かれている視点が低い。子どもの視点の絵、子どもが絵の空間に入り込んでいける。
- ・お母さんの読む文章が音として子どもに入っていくと「キキーッ」がブレーキの音になって聞こえ、心の動揺、時間の流れが子どもたちの中に起こり、子どもたちが絵の中に入っていった静止画の絵であっても動き出す。
- ・イラストによって表現されることの大事さがある→見え方が伝えられることによって、さらに展開され心が動く。

あおくんときいろちゃん

- ・「あおくんです」という言葉が入ることによってイメージが創られる。
- ・「あおくんです」男の子に置き換えることもできる。
- ・頭の中で創っていくイメージが優先する。
- ・具体像がないので、いろいろ想像できる。
- ・言葉が形に意味を与えるイメージをつくる。



写真でも「キャプション」によって全くちがうイメージを与えることもある。

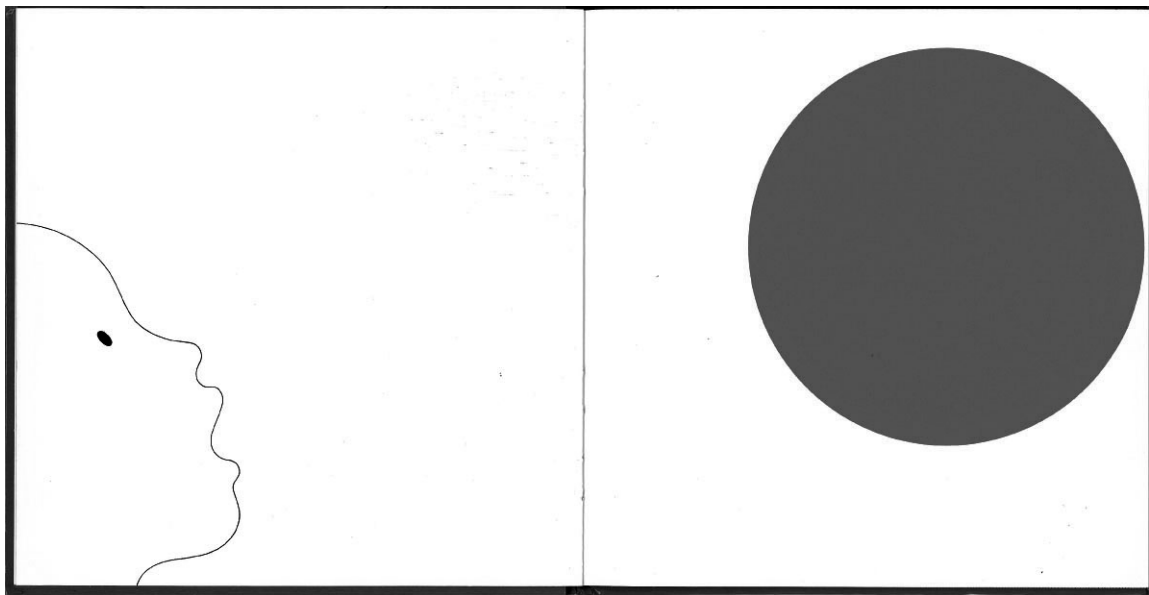
例えば「3人の男の子が肩を組んで並んで撮っている写真」

- ・キャプションに「仲のいい男の子3人」と書かれている場合と「真ん中の男の子がいじめられている」と書かれている場合、どちらにもとれる。
- ・キャプションが付くことで一定のイメージが伝わる。→言葉と絵の微妙な関係
- ・具体像がなくてもイメージが伝わり、想像が膨らんでいく。
- ・あおくんですのような絵本には修飾語が入っていない。言葉が最も抽象化された状態と絵の最も抽象化されたものがぶつかり合って、言葉とイメージを作っていく。

- ※ はやしあきこさんの絵本とあおくんですでは読み方がちがってくる。  
最終的に自分の中のものとしてイメージが膨らんで絵本をとらえていく。

### あかいふうせん

- ・輪郭だけで表現、形を利用している絵本
- ・子ども達から言葉がシャワーのように出て来る。形に対して何となく言葉が感じられる。
- ・背後に言葉が隠れている。
- ・如何に言葉を引き出すか。
- ・「見せて、言葉をもらおう」という絵本



### まとめ

絵本の表現の特徴の違いをどのように生かして読み聞かせをするか。

- ・絵本は多様、いかに多様であるかを知っているか知っていないかで、絵本の見せ方、読み方がちがってくる。
- ・物語のあるもの、言葉があって形からイメージを膨らませていくもの、輪郭(具体的な形)的形が変化して言葉を引き出していくもの、今日紹介しただけでも三種類の違うものがある。これをどのように使っていくか。

絵本によって違った見せ方、読み方をして子どもたちと対話をしていくことを楽しんでもらいたい。

—イタリアの絵本の紹介『きりのなかのサーカス』—

「THE CIRCUS IN THE MIST」 Bruno Munari著

トレーシングペーパーを使って、霧の中をバスに乗って見えてくる景色と消えていく景色を表現している楽しい絵本、これはみんなで見るより1人で楽しんで見る本

## B 本の修理講座 「やってみよう！本の修理」

講師：(株)有隣堂 司書 小石浩貴さん、岡嶋らん子さん

参加者は各々修理本を持参し、本の様々な個所の修理を実践しました。

### ① かどの修理

使用品：クロステープ

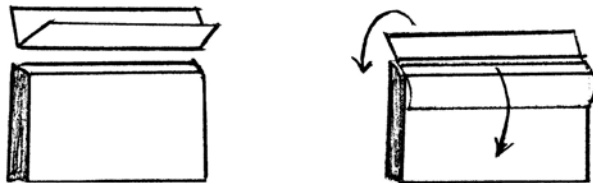
クロステープを三角に切り、本の表から角に貼る。テープを順に折って角に貼っていく。



### ② 背表紙の修理

使用品：透明テープ

透明テープを本の長さに切り、縦半分に折る。丁寧に半分ずつ貼る。



### ③ のどの修理

使用品：白塗りテープ

表紙より見返しのほうが少し短いので、短い方にあわせてテープを切る。テープの裏紙が半分に切れていると貼りやすい。



※貼りやすくするために、修理している本と同じ高さの本を補助台として使うとよい。

(注) 講座で使用した修理材料は有隣堂で取り扱い

本を傷めないために気をつけることとしてのアドバイスもいただきました。

- ・子どもたちに本の扱い方を指導する。
- ・手をきれいにしてから本を読む。
- ・上部の背表紙を持って、本棚から引き抜かない。
- ・鉛筆やペンをはさまない。
- ・新しい本には開き癖をつける。(本に息をさせてあげてから読む)



修理資料1／2

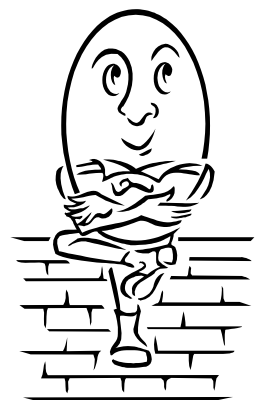
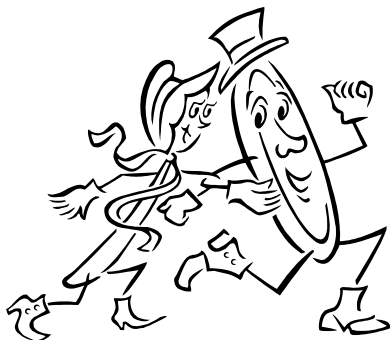
修理資料2/2

## C わらべ歌で始めるお話し会講座 「お話し会のコツ1・2・3」

講師：篠裕子さん、片山恵美子さん

講師と参加者がひとつの輪になって講座を行いました。講師による「こんにちは」の意味のわらべうたでスタートし、参加者の雰囲気が一気になごみました。今回は季節にちなみ「秋」のわらべ歌が多数紹介されました。

- ◆ 講師の方から、お話し会で本と本の間にならべ歌をはさむのは、お話の世界で旅をしていた子どもたちに、「さあ、次のお話が始まるよ」ということを知らせる意味があるという説明がありました。
- ◆ 紹介された17ほどのわらべ歌のほとんどを、参加者も一緒になって声をだして歌ったり、手あそびを真似たりして楽しみました。手あそびの真似がうまくいかないと参加者からはおもわず笑い声がもれていましたが、講師の方からは、「まちがっても、それで子ども達の気持ちがほぐれたり、笑いがうまれたりするのです、それがまたいいんです」という説明があり、一同ホッとした様子でした。「わらべうたは、子どもたちが自然にふれあい、やっているうちにいつのまにか仲良くなれるものです」とのこと。わらべうたをお話し会に加えることで、そのお話し会が子どもにゆったりとした安らぎを与える時間になるのではないのでしょうか。
- ◆ わらべ歌は添付資料参照



わらべうた資料1／3

わらべうた資料2/3

わらべうた資料3／3

## D 語りと音楽による手作り紙芝居の世界

### 「ちいちゃんのかげおくり」他

演者：かみしばいアンサンブルよこはま 大泉ひろ子さん、原和子さん

『かみしばいアンサンブルよこはま』は、手づくりの紙芝居の持つ暖かさを生の声と演奏でお届けしているデュオです。大泉ひろ子さんが紙芝居のストーリーと絵の制作および語りを担当し、原和子さんが大泉さん制作の作品に響き合うオリジナル曲の作曲と生演奏をします。1998年の結成以来、小学校を中心に数多くの公演を行っており、来年6月にはブラジル移民百周年祭プロジェクトの承認を受け、ブラジル公演が決定しています。

今日の演目は、大泉さんが小学校4年生の時に始めて制作した「湖山長者」と戦争によって家族と離れ離れになった女の子、ちいちゃんを描いた「ちいちゃんのかげおくり」と、ブラックパネルシアター「お月さま」です。

紙芝居「湖山長者」（鳥取県因幡の国の民話より）

文・絵：大泉ひろ子 音楽：原和子

「湖山長者」は、鳥取県因幡地方湖山池に伝わる民話で、小学生にも分かりやすいお話です。

昔々、湖山長者と呼ばれる大金持ちの長者が住んでいました。長者が村のものたちを使って田植えをしていたある日、西の空に日が沈みそうになってしまいました。まだ田植えは終わらぬと、長者は金の扇を取り出し、太陽に向かって「戻れ、戻れ」と扇ぎました。すると西の山に沈みかけていた太陽は再び上り始め、無事に田植えは終わりました。

ところが次の朝、昨日植えたばかりの田んぼは、見渡す限りの「池」になっていました。その湖を、湖山池と呼ぶようになったという事です。



紙芝居「ちいちゃんのかげおくり」 原作:あまんきみこ 原画:上野 紀子

紙芝居制作: 大泉ひろ子 音楽: 原 和子

戦争によって命を奪われながらも、なお家族を慕うちいちゃんの姿を通して、戦争の悲惨さとその戦争でさえも奪えなかった家族のきずなの深さが迫ってくるお話です。小学校3年生の国語の教材にもなっています。

お墓参りの帰り道、お父さんが「かげおくり」という遊びを教えてくださいました。次の日、お父さんは戦争へ出征しました。それから戦争はどんどん激しくなっていました。ある夏の初めの夜、空襲警報のサイレンが鳴り、お母さんとお兄ちゃんとちいちゃんは家を飛び出しました。でも人ごみの中、ちいちゃんはお母さんたちとはぐれてしまいます・・・。

ブラックパネルシアター「お月さま」

♪「つき」 文部省唱歌      ♪「うさぎ」 文部省唱歌

キット制作: 大泉ひろ子

ブラックパネルシアターでは、部屋を映画館のように暗くしてブラックライトという光を当てることで、蛍光顔料を含んだもので描いた作品が浮きあがって見えます。会場の中に突如現れた幻想的な美しい月夜に懐かしい音楽が流れました。



## E 学校図書館活用講座 「もっと使える！学校図書館」

講師：(株)有隣堂 司書 小石浩貴さん

学校図書館の基本的な知識として知っておきたいこととして、分類・レイアウト・配架・廃棄等について、パワーポイントを使った講義をしていただきました。

### 1. 分類について

多くの本から目的の資料を探し出す工夫の方法として、分類の意味がある。資料をルールにのっとって分類し並べることで、誰もが早く目的の資料を探し出すことができる。分類の方法には、UDC・LCC・NLMC・・・等多数あるが、日本の公共図書館・学校図書館のほとんどはNDC(日本十進分類法：日本図書館協会が世の中のことを10の分野に区分し定めた)の分類方法を採用している。小中学校では上2～3桁を分類記号として採るのが一般的である。(例：319. 8、783. 7)

学校図書館における分類記号の応用として、大きなテーマで統一されているシリーズものはそのテーマで統一した分類にする。また、全集は△△8として分類、絵本726. 6は分類記号を「E」としている。NDCから離れた特殊な分類をつけたり、過去の方法を無視して違う分類をつけたりすると利用者は混乱するので、あくまでNDCに準拠した応用である。

請求記号は分類記号(NDC、3段ラベルの上段)に図書記号(著者記号、3段ラベルの中段)と巻冊記号(巻次・年次、3段ラベルの下段)を加えたものである。所在位置を知らせる住所のようなもので、台帳や目録に記載するとともに、ラベルに記入し、本の背に貼っておく。ラベルは分類別に色分けすることもある。

### 2. レイアウトについて

蔵書構成は全国学校図書館協議会の発表した基準(分類別蔵書構成標準)があり、小中学校とも四分の一が文学を占める。書架・配架の基本は「左上から右下へ」と「時計回り」で、書架には1連複式や2連単式がある。

使いやすい図書の配置として、「別置」がある。禁帯出図書や個別に配置したほうがよい本などは、請求記号に関係なく特別にコーナーを設け、適切な本をピックアップしてアレンジする。別置コーナーはその意図が誰にでもわかるように必ず案内表示をしておく必要がある。(別置の例:新着図書、特集企画、参考図書、寄贈図書、絵本・紙芝居、大型本、ビデオ・CD)

### 3. 配架について

図書を請求記号の順番に書架の左から右に向かって並べていくことを分類配架といい、①分類記号(NDC)の数字の小さい順、②図書記号(主にかな一文字)の五十音順、③巻末記号の数字の小さい順に並べる。

配架作業では、棚ごとに左から右へ並べ、一列が終わったら下の棚へ続きを並べる。今後本が増えることを考慮して一列ごとに多少のゆとりを残す。一本の棚がいっぱいになったら右隣の本棚へ移動し、図書室内の本が請求記号順に時計回りで一周している状態が望ましい。棚に並べた本は背表紙をあわせるなどして奥に詰めず、空気が通るようにする。文庫本などは棚の奥に空き箱を置くなどして奥に行かないようにする工夫をしてもよい。

配架による効果は次の点があげられる。分類記号(NDC)順に配架することで、主題別に図書が配置され、類書を知ることができる。図書記号の順に並べ変えることで、同一主題の中でさらに同じ著者の図書がまとめて配置される。巻末記号(巻次・年次)を考慮することで、同一シリーズとしてのグループ化がされ、続き物の場合、読むべき順番がわかりやすくなる。分類別蔵書構成が把握できるため、今後の図書購入や廃棄時の計画を立てやすくなる。

### 4. サイン・展示について

分類案内板をつけ、分類の意味がわかるようにする。書架ごとに分類の見出し(サイン)をつけておく。サインや展示は、わかりやすいこと、鮮度がよいこと、利用の妨げにならないこと、空間の有効活用となること、劣化しにくいことに留意する。



### わかりやすい分類見出し(例)

0分類:総記	ずかん
1分類:哲学・宗教	こころ
2分類:歴史・伝記・地理	昔の人のくらし、いろいろな土地のようす、戦争、えらい人のはなし
3分類:社会科学	世の中のしくみ、国のしくみ、世界のうごき
4分類:自然科学	算数、理科、物のしくみ・なりたち、太陽・星・宇宙、人のからだ
5分類:技術・工業	のりもの、家庭、環境問題、料理のつくりかた
6分類:産業	やさいの育て方、ペットの飼い方
7分類:芸術・体育	趣味、スポーツ
8分類:言語	ことば、辞典、英語
9分類:文学	詩、日本のよみもの、外国のよみもの



## 5. 廃棄について

廃棄とは、傷んだ本や古くて利用されていない本などを図書室の本としないで、ほかの場所(学級文庫等)に移す、あるいは捨てることである。学校図書館の本は公費で購入されていて、年に一度は蔵書点検を行い紛失図書・廃棄図書を確認し正確な蔵書を把握することが望まれる。

廃棄の基準は、①形態的にはまだ使用に耐えうるが、記述されている内容・資料・表記等が古くなり利用価値の失われた図書、②新しい学説や理論が採用されていない図書で、史的資料としても利用価値の失われた図書、③刊行後時間の経過とともにカラー図版資料の変色が著しいため、誤った情報を提供することが明白な図書、④利用頻度が著しく低い複本で保存分を除いた図書。ただし、年鑑・白書・郷土資料・貴重書は廃棄対象としない。(全国SLA「学校図書館廃棄基準」より)

学校では時間・人数の問題で点検できない年が多いのが現状で、地味な作業だが学校側からは喜ばれる作業である。廃棄によって、スペースの確保・最新の内容や正しい事実を伝える資料の選別・イメージアップをはかることができる。廃棄は蔵書点検後、図書台帳との照合を行い、紛失本の抹消作業を行う。図書台帳は学校の重要書類であり、廃棄には書類による届出が必要なので、この作業は学校側で行うか、しかるべき業者に依頼するようにする。

## 6. ひらかれた学校図書館へ

図書室の本はきちんと配架されていて、案内板も掲示物も見やすく用意できている、書架もきれい、と申し分ない状態・・・けれども実際に利用されてこそ図書室は存在価値が認められる。授業以外でももっとたくさんの児童生徒に図書室に立ち寄ってもらえるよう、いろいろな活動を行い図書室をアピールする必要がある。

図書館だよりの発行、貸し出しランキングの掲載、掲示板での新刊情報案内貼付、POPの作成・設置などにより図書室や本のPRができる。図書室の入り口に新着図書のジャケットカバーを掲示したり利用案内やお知らせ用のボードを用意したり、図書室をなごやかな雰囲気にした場合には、マスコット(本の主人公)や植物の用意をすることも考えられる。展示の工夫例には面出し配架がある。書架の最上段は本が取出しにくいいため、そのスペースを活用して書架ごとの主題を表す本を数冊ずつ展示しておけば、どんなテーマの本のコーナーなのかが明らかになり、見た目も華やかである。リクエスト箱を置いて今後読みたい本を記入してもらい購入の参考にしたり、読書感想ノートを置いて誰でも自由に読んだ本の感想やイラストを書き込んでもらったり、読み聞かせ・ブックトーク・アニメーションなどの開催もよい。

また、学校図書館の環境づくりとして、安全管理(防災・防犯)、換気・暖房・空調の設備管理、必要な明るさの確保、吸音・遮音のための配慮、絨毯・備品などの衛生管理なども重要である。



## F ブックトーク講座 「How-to ブックトーク」

デモ : 緑図書館 司書 笠原由紀子さん

解説 : 山内図書館 司書 山村園江さん

前半は、山内図書館の山村さんによるブックトークのデモンストレーションでした。テーマは「うーん なるほど！ 小学3年生におくるブックトーク」で、子どもたちに話すようにお話を進めていただき、楽しみました。

後半は、緑図書館の笠原さんの解説で、「How-to ブックトーク」を教えてくださいました。

### ◆ デモンストレーションで紹介した本(添付資料参照)

「くだもの なんだ」

「ゆうかんなハリネズミマックス」

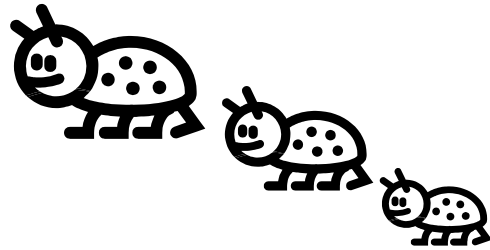
「どんぐりノート」

「いろんな場所の虫さがし」

「アホウドリの島」 森のシリーズ

「恋のまじないヨンサメカ」

「びくびくビリー」



- ◆ 紹介された本は順番に表紙が見えるように立てて並べられた。
- ◆ 本の内容を少しずつ紹介しながら、同じシリーズ本や関連する本を紹介した。
- ◆ 「実は私もこの人形を持っています。」と「びくびくビリー」の本にでてくる人形を見せた。

受講者は、引き込まれたようにとても真剣に聞き入りました。「いかがでしたか？『うーん なるほど！』と思える本ばかりでしたでしょ。こういう本が学校図書館や図書館にいっぱいありますよ。みんなも是非、借りに来てください」という子どもへのよびかけのことばでブックトークは締めくくりとなりました。

ブックトークデモ資料1／1

## ブックトークの解説

How-to ブックトークとして、資料に掲載された事項の他にもたくさんのアドバイスがありました(添付資料参照)。

- ◆ 読む気にさせることが目的。「図書館にいけばあるんだ」「読んでみようかな」と思ってくれればそれでいい。この本を読みなさいという強制ではない。
- ◆ 効果は絶大。ある小学校で実践したら、子どもたちが図書室に押し寄せて5セット用意した本も売り切れてしまった。夏休み中にもその本は動いていた。
- ◆ 大人でも効果がある。
- ◆ ブックトークをしようと思ったら、まず図書館員に相談してみる。
- ◆ ブックトークを終えて見る時間を10分ぐらいとり、その場で本にさわって満足する方法もとっている。また、家に帰ってから購入したくなる子もいるので、紹介する本が書店の棚にいつもあるような本かどうか確認しておくとい。
- ◆ 読書は心を安定させてくれるもの。いい本はすんなり本に入っていける。
- ◆ 自分の大好きな本にあと3冊を選んでそこから始め、絵本と読み物をと足し算していく形で6~7冊にふくらませるとやりやすい。やっていくうちに大人の視点に立ちやすいので、子どもの視点で組み立てる。
- ◆ ポイントを書いた程度 of 原稿を用意するとい。台本のように全部を書いた原稿だと読んで終わってしまう。口語体で、ほんとにしゃべっている感じでやるといい。
- ◆ 子どもが紹介された本を探せるように、図書館に登録されている本の題名と同じ題名でブックリストを作る。











## G 英語で楽しむ絵本の読み聞かせ

読み聞かせ : 国際児童文庫協会 マクレラン直子さん

リュート演奏 : 近藤 亘さん

マクレランさんは絵本を英語で読み聞かせながらやさしい日本語の訳を自然に付け足し、英語がわからなくても英語の語感を感じながら理解できるような読み聞かせを行われました。また近藤さんのリュートの小さくても独特の音が醸し出す雰囲気とマッチし、良質の芸術空間を体験できたような気がします。スローでぜいたくな時間を味わいました。英語絵本というあまりなじみのない絵本の読み聞かせと、リュートという昔の西欧の絵でしかお目にかかれない楽器の演奏とのコラボレーションが行われたことは日本ではおそらく初めての試みではないでしょうか。

マクレランさんが読み聞かせを行った絵本と近藤さんの演奏曲は、次の通り。

### 英語の絵本

The Enormous Potato・・・Aubrey Davis (著), Dusan Petricic (イラスト)  
Giving Thanks・・・Jonathan London (著), Gregory Manchess (イラスト)  
Livingstone Mouse・・・Pamela Duncan Edwards (著), Henry Cole (著, イラスト)  
Lotus Seed・・・Sherry Garland (著), Tatsuro Kiuchi (イラスト)  
My Working Mom・・・Peter Glassman (著), Tedd Arnold (イラスト)  
Purple Balloon・・・Christopher Raschka (著)

### リュート演奏曲

KEMP'S JIGGE

WILLSON`S WYLDE

以上作者不詳

Tarleton`s Riserreccione JOHN DOWLAND 曲

PreIude Mouton 曲

PreIude

Aria Anton Logy 曲

Ballet de la Reyne ROBERT BALLARD 曲

Tant que vivrai 作者不詳

TOY No2.及び No3 作者不詳



## H 読み聞かせ講座 「読み聞かせのコツ1・2・3」

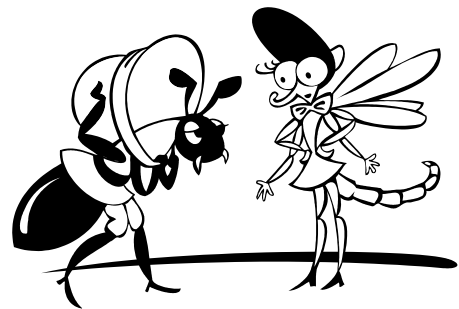
講師：おはなしのエーミル

羽生美恵子さん、吉田久美子さん、安達かおりさん

少人数のグループになり、受講生はそれぞれ持参した本で読み聞かせの実習を行いました。読み聞かせの基本を学ぶ講座で、講師からは一人ひとりへ読み方と選書についてのアドバイスがありました。

読み聞かせの基本から

- ◆ 最初に子どもたちの絵本を見る位置を確認し、子どもたちから見えるよう配慮する。
- ◆ 子どもたちは絵本を見ているので、自分の顔を子どもたちに向ける必要はない。
- ◆ 本のカバーは邪魔になるので、最初からはずしてしまっておく。本の表紙に色がついていないものは、はずさなくてもよい。
- ◆ 見返しに素敵な絵が描かれている本は、見返しもよく見せるとよい。
- ◆ 読み終わってから、最後に作者や画家の紹介をする。合わせて同じ作者やシリーズ本などの他の本の紹介をするといい。読む前は題名のみを紹介する。
- ◆ 本は覚えてしまうぐらい練習をしてから本番に臨む。きちんと子どもの前でやるように練習しておく。
- ◆ 新しい本は折り目をつけておく。
- ◆ 「ちいさいおうち」(ジョージシリーズも)の岩波の小型本とされる昔出版されたものは、元本とちがい鏡絵になっているので使わないで欲しい。それらは、岩波の大型本を使用する。
- ◆ 右開き、左開きは、近いページからめくると覚えて、ページをめくる時に、手が邪魔にならない方にめくるとよい。

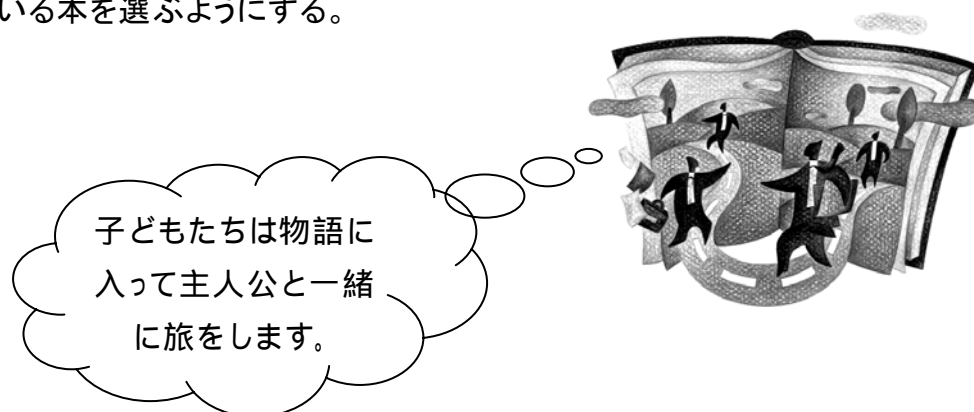


#### 受講生の読み聞かせへのアドバイスから

- ◆ めくりがはやすぎるので、ページを全部よみ終わってからページをめくるとよい。
- ◆ 読む時に声色を変えるのではなく、テンポを変えるとよい。
- ◆ 子どもの顔を向ける必要はないけれど、大きな声で良かった。
- ◆ たて開きとよこ開きが混合の絵本は、用意しておいてページを早くめくるとよい。
- ◆ 間違っても大丈夫なので、自信をもってやる。
- ◆ 子どもの視線がチラチラするので、本は動かさないほうがよい。
- ◆ 紙芝居ではないし、声を変えることはないと思う。自分の心の中で、そのものになればいいので、本はふつうに読めばよい。
- ◆ 終わりは、きちんと終わるようにする。
- ◆ 外部の読み聞かせ講座に出席したり、一緒に読み聞かせを行うメンバー同士で勉強会をおこなったりするとよい。

#### 選書に関するアドバイスから

- ◆ 大人の視点に立って、大人から〇〇してほしいとか、大人の思いの本が、本当にいい本であるのかどうか。
- ◆ 親子で読むような信頼関係がある場所でならよいが、怖い本は読み聞かせにはむかないと思う。
- ◆ その場で楽しいだけの絵本は読み継がれない。
- ◆ 学校で読み聞かせをする前に10回読んでみる。それで自分が1回でもつまらないと思ったら、その本の読み聞かせはやめる。
- ◆ 自分が子どもに届けて大丈夫か考える。自分たちの自己満足ではなく子どもたちの本との出会いを考える。
- ◆ 読み聞かせリストを使う。
- ◆ 書店にならんでいる本は売れる本であり、良書とは限らない。読み聞かせの本は図書館で選ぶのがよい。また新しい本よりも長い年月を経てもなお読み続けられている本を選ぶようにする。



読み聞かせ資料1／4



読み聞かせ資料3／4

読み聞かせ資料4／4

## 情報と交流

区内および近隣で活動している団体から寄せられた情報や読み聞かせにおすすめの本などを展示しました。



### 情報をお寄せいただいた団体の主な活動場所・内容

- スプンク劇場 若草台地区センター おはなし会
- もえぎ野文庫 柿の木台 文庫
- つつじ文庫 つつじが丘 文庫、読み聞かせ、おはなし会
- 国際児童文庫協会(ICBA) たまプラーザ 外国語文庫
- Humpty Dumpty文庫 青葉国際交流ラウンジ 文庫、読み聞かせ
- NPO法人W.coパレット 青葉区 文庫、読み聞かせ
- ブック・パル 青葉台小 図書室の環境整備、読み聞かせ
- 図書ボランティア 荏子田小 蔵書の電算化、修理、読み聞かせ
- 図書ボランティア さつきが丘小 図書室の環境整備、本の紹介
- 図書室お助け隊 奈良小 図書室の環境整備、本の紹介、古本市
- たけのこ文庫 谷本小 読み聞かせ、本の整理・修理
- 学校図書室支援ボランティア あざみ野中 昼休みの図書室開放、修理
- おはなしサンタ 長津田地区センター おはなし会
- おはなしポケット 緑区・旭区他 読み聞かせ
- エステ・キッズひまわり文庫 都筑区 文庫、読み聞かせ
- おはなしネットワークかたららん 都筑区 おはなし会
- まりこ みゅーじあむ 神奈川区他 おはなし会
- 紙芝居イセザキ座 伊勢佐木町他 紙芝居の上演、講習
- かみしばいアンサンブルよこはま 横浜市小学校他 創作紙芝居公演

＝情報をご提供いただきありがとうございました＝

## 受講生感想

アンケートで多くのご意見・ご感想をいただきましたので、一部をご紹介します。  
ご協力ありがとうございました。

- トークショーを聞いて、絵本へのアプローチの多さに気がきました。
- トークショーで大人が読んでも楽しい本を紹介していただけでよかった。
- 本の修理に使う補修材料等が分かり、大変ためになった。
- 本の修理は難易度の高い内容も知りたい。
- 本の修理の仕方が自己流だったことが分かって反省した。
- わらべ歌はとても役に立ちそうです。
- 小さい子どもを相手にする講師のやさしさが十分に感じられ、子どもにはこんな話し方がいいんだと実感しました。
- 紙芝居は絵と語りと音楽がマッチしていて、ただ絵本・紙芝居を見るだけよりも臨場感がでてとてもよかった。ぜひ子どもたちにも見せてあげたいと思った。
- 紙芝居はプロのような話し方をされ、とても真似できないけれどすばらしいものを見せていただいたという感じです。
- 学校図書館活用講座で質問コーナーがあるとよかったです。
- ブックトークが特におもしろく、自分もやってみたいと思いました。
- ブックトークの実演がすばらしかった。
- 英語の本の選び方、読み方などもっと紹介があればと思いました。リユートも最後に紹介というのがもったいないです。
- リユートのやさしい音が読み聞かせにぴったりでした。
- 他の方の本の読み聞かせを聞いて、先生のポイントを聞いて感心しました。子どもたちのためによりよい本を紹介できるようにがんばらなければと思いました。
- 読み聞かせは責任を持ってすることを知りました。気をつけてやっていきたい。
- 大人の前での読み聞かせがとても貴重な経験になりました。
- 音楽と物語の関係についてよく感じる事ができて勉強になりました。
- 今回学んだことを周囲に伝えて活動していきたい。
- 時間枠がもう少し長いとたっぷり聞けてよかった。
- 楽しい研修のように位置づけられたらいいなと思います。
- アニマシオンの講座を望みます。
- 参加者同士の交流できる場があるととてもよかったです。
- 学校とボランティアがよい関係を作っていくことも大切ですね。
- 本に対する意識の再確認になり、とてもよかったです。



**Thank you**





あおば学校支援ネットワーク

平成19年度

図書ボランティアフェスタ 記録集

発行日 平成19年10月31日

編集・発行 あおば学校支援ネットワーク

TEL : (070)6974-0184

子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育機構)助成活動

禁複製